

校長だより

福津市立福間東中学校
校長 猪股 清貴
平成 29 年 2 月 6 日 No57

白梅が花びらを付けました！



事務室横の白梅が花びらを付けました。去年は 2 月 19 日発行のこの欄で紹介していますので、今年も 10 日以上早い開花です。梅の花言葉は「高潔」「忠実」「忍耐」と言われています。特に、「忠実」については、政争に敗れて大宰府へ左遷された平安時代の貴族・菅原道真（845～903）の後を追って大宰府の地に根を下ろしたという飛梅伝説に由来すると言われています。また、白梅には特別に「気品」という花言葉があるのですが、あでやかな紅梅に対して、白梅の凜として上品なその花の姿にちなむそうです。写真の花びらからも気品が漂ってくるようです。立春が過ぎましたので、暦の上では春です。3 日には福岡地区私立高等学校の一般入試が行われました。早速、明日には合否が明らかになります。3 年生にもこの白梅のような進路の花が咲きますように。

どうして、数学を勉強するの？

こう質問されたら、私は「論理的に物事を考える力を身に付けるため」と答えていました。数学の授業では「正しい結論を導くための考え方」を学習します。これを「数学的推論」と言います。中学校で学習する推論には「帰納」「類推」「演繹」の三つの方法があります。まずは、「帰納」です。これは、一つ一つの具体的な事実から共通点を探り、そこから法則を導き出す方法です。これは、小学校で学習する代表的な方法ですね。三角形の内角の和が 180 度であることをいろんな三角形を使って調べて見つけ出したでしょう。次の「類推」もよく似ています。似ている点を基にして他の物事を推理することを言います。この「帰納」「類推」という考え方は、理科の実験や観察でもよく使われるように、新たな事柄の発見のためには大切な考え方ですね。これに対して「演繹」は、ある前提を基に経験に頼らずに論理的に結論を導く考え方です。実は小学校までは、「三角形の内角の和は 180 度になるんじゃないかなあ？」というところまでしか学習していなかったのです。それは、実際に操作した三角形ではそうなったけれども、全ての三角形についてそう言えるのか？という証明まではしなかったからです。反論できない証明をするのが「演繹」という方法です。写真の授業では、平行線の性質を根拠にして同じ面積の三角形を見つけている様子です。どうして、同じ面積なのか？証明しているのです。村瀬先生は、モニターを使ったり、作図したりいろんな方法で難しいことを分かりやすく工夫されています。生徒も真剣そのものです。



作家の井上ひさし氏の言葉に次の言葉があります。

「難しいことを易しく、易しいことを深く、深いことを面白く、面白いことを真面目に、真面目なことを愉快に、そして、愉快なことはあくまで愉快に・・・」

我々教師が最も大切にしたい言葉です。ところで、この説明は分かりやすかったですでしょうか？